

城かべ

(大袋20kg・小袋4kg)



しっくいスタンダードとして長い歴史を誇る城かべ。
数々の名建築を仕上げ、発売以来二十有余年になります。
その幾多の実績で培われ、安定した品質は、まさにしっくいの最高峰と
言えるでしょう。

- 選び抜かれた原料はすべて調合済み、水で練るだけです。
- あらゆる用途に使える汎用タイプ。
- 彫刻、蛇腹引きなどにも活用できます。

商品概要

①品名	城かべ 城かべ小袋
②性状	白色粉末
③主原料	消石灰、粉末糊料、植物繊維
④荷姿	20kgクラフト防湿袋（小袋：4kgポリ袋ケース6袋詰）
⑤用途	壁上塗り、壁中塗り・屋根・彫刻・蛇腹引き
⑥用法	清水約15Lにて混練 コテ塗り
⑦塗面積	16.5㎡(5坪)/1.5mm（小袋：3.3㎡(1坪)/1.5mm）



田川産業株式会社

城かべ



城かべ

施工要領

1. 混練

- ① きれいな練り船に城かべと清水15ℓをいれて、練り鉤で充分練りあわせませす。
(ハンドミキサー使用の場合、容器に水を先にいれておくとし練りやすくなります。)
- ② 油、ボンド等は水で練り上げた後に混入して、改めて充分練ってください。
- ③ 混練後1～2日置いておくと良く馴染み、塗りやすくなります。

2. 下地処理

- ① 左官下地は完全に養生、乾燥させて、ボード類は目地処理をしておきます。
- ② 表面をきれいに清掃して、シーラー引きまたは水打ちをしてください。
- ③ より完全な仕上にするには、砂しゅくい(城かべ中塗り用、城かべ屋根しゅくい)で下ごすりをしておき、生乾きのうちに追いかけで仕上げてください。

3. 塗り付け

- ① はじめに下地に食い込むように全面に薄くしごき塗りして、2回目に厚みを揃えてください。
- ② 表面が半乾きの状態で金ゴテで押さえていきます。コテ押さえの回数で壁の硬度と耐久性が決まりますので、少なくとも2～3回は丁寧に押さえてください。
- ③ 仕上がり後、適当な通風をして徐々に乾燥させます。

※ 磨き仕上げ

- ① 高級城かべを100メッシュ程度の網でふるったものを水で練り、ノロを作ります。
- ② ノロを上塗りが乾かないうちに薄く伸ばして、磨きコテで満遍無く押さえます。
- ③ 水気が無くなり、コテがつかなくなったら手でこすって艶を出します。
- ④ 一度艶が出たらネル布でこすって艶を消し、再度手でこすると艶が長持ちします。

※ 中塗り、屋根工事 彫刻・蛇腹引き

- 施工の手引きを参照してください。

試験項目(試験方法)

①安定性試験 (JIS-A-6902)	②表面硬度 (JIS-A-6904,6908)	③接着強度 (JIS-A-6909)	④耐候性試験 (JIS-A-5400 ウエザーメーター)	⑤凍結融解試験 (-30℃～80℃ 10サイクル)
合格	2.6	2.2kgf/cm ²	異常無し	異常無し

施工上の注意

- ① 外壁や水がかかる箇所への施工には必ず「城かべ油」を添加してください。
- ② 材料を1週間以上練り置く場合は糊剤(粉末銀杏草)を追加してください。
- ③ 土中塗りや付着しにくい下地には必ずシーラー引きを施してください。
- ④ コテ押さえはなるべく金ゴテを使用し、プラスチックゴテは磨きだけに使用してください。
- ⑤ 冬期は白華が出やすいので成るべく保温をし、5℃以下の場合施工を避けてください。

製造



田川産業株式会社

〒826 福岡県田川市大字弓削田1924番地

TEL 0947-44-2240

FAX 0947-44-8484